

カモシカ通信



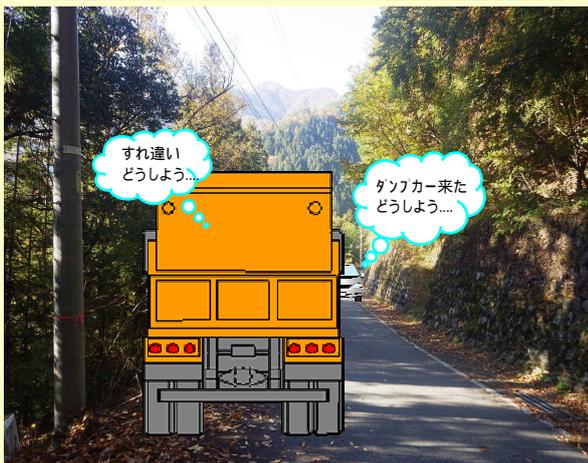
遠山郷も寒気ことのほか厳しく三寒四温の候、皆様お元気で新年をお迎えのことと存じます。地域の皆様方には、日頃より工事にご理解、ご協力いただきありがとうございます。遠山地域の安全・安心を実現するため、本年も日々努力して参ります。今月のカモシカ通信は、「平成29年度 天竜川水系 池口砂防堰堤工事用道路拡幅工事」の現場紹介と、此田地区に伝わる「此田神楽」について紹介します。

現場紹介 「平成29年度 天竜川水系 池口砂防堰堤工事用道路工事」の現場を紹介します。

本工事は池口川の流域における、土石流対策施設の「砂防堰堤」を作るための道路工事を行っています。砂防堰堤の建設には、大型の工事用車両が長期間にわたりコンクリートなどの材料や、大型の建設機械などを運搬することになります。目的の砂防堰堤の建設に先立ち、山間の道路で見通しも悪く、接近しているほかの車とすれ違いが出来る場所も少ない道路を、延長約2kmの間に元からある待避所とは別に、8か所の「待避所」を作る工事です。

工事施工：株式会社宮坂組

大型車両通行のイメージ(待避所なし)



大型車両通行のイメージ(待避所完成後)



無形民俗文化財 此田神楽の紹介

毎年正月の2日、遠山郷南信濃此田地区に伝わる神楽獅子が、各戸を初舞いしながら回り、笛と太鼓の音色で正月の雰囲気を一層と際立てます。

杉の木で出来た獅子の面は軽く、特徴的なのはかぶってから中の木の棒を口でくわえ舞い、祭りや祝儀、正月に披露され、長く地区の伝統芸能として親しまれています。

18世紀初めに現在の愛知県新城市から伝えられたという、伊勢神楽の流れをくむ獅子神楽、南信濃八重河内周辺に伝承されていた雄獅子と一対だったと考えられていて、獅子舞と聞くと勇壮なイメージが先行しますが、此田地区に伝わる神楽獅子は雌で、面には「おかめ」と「獅子」があり、振袖をまもって優雅に舞うのが特徴です。

「悪魔っばらい」の様子



情報提供：此田神楽保存会

遠山郷観光協会

